

# スーパーマーケット景気動向調査

## 2015年1月調査結果(12月実績)

### (1月21日公表)

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

#### 【経営動向調査】

1.経営状況:「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」

スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

① 前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で調査

② 前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より調査開始

2.カテゴリー動向:「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」

スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

① 前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で調査 ※2014年4月実績より調査開始

② 各カテゴリーの好不調要因についてのコメント ※2014年4月実績より調査開始

経営動向調査DI(Diffusion Index)の算出方法

回答構成比(%)に、以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

#### 【景況感調査】

1.景況感:「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

① 2~3カ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で調査

② 今後2~3カ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で調査

景況感DI(Diffusion Index)の算出方法

回答構成比(%)に、以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0.0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

日本スーパーマーケット協会  
オール日本スーパーマーケット協会  
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ  
tokei@super.or.jp

# 1月調査（12月実績）結果概況

## 景気判断DIは現状・見通し判断共に4ヵ月ぶりにやや反発

12月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は前月から+3.1の46.3、見通し判断前月から+2.1の42.5と4ヵ月ぶりに反発をみせた。

経営動向調査結果では、売上高DIが-3.9（前月比-0.2）、収益DIは-0.4（前月比-3.0）となり共に前月からほぼ変わらない水準であった。青果相場は下落しているものの、精肉や鮮魚相場が高止まりしていることで生鮮仕入原価DIが12.7（前月比-6.7）と上昇し、販売価格DIや客単価DIがどちらも上昇したものの、来客数DIが-15.3（前月比-4.5）が下落したため、売上高や収益の上昇につながらなかったとみられる。

カテゴリ動向結果では、青果DIが相場安により-19.0（前月比+1.6）と不調も、畜産DI16.8（前月比-1.2）と引き続き好調であり、水産DIも4.7とやや好調を維持している。惣菜はプラスを維持し、日配は前月と変わらず、一般食品と非食品は共に二桁のマイナスで不調となった。

景況感調査で象徴的だったのは、消費者購買意欲DIの動きであり、現状判断は46.2（前月比+3.0）と改善を見せたものの、見通し判断は41.5（前月比-0.4）と横ばい推移である。また景気判断DIは共に改善したものの、現状46.3と先行き判断42.5とやや乖離があることから消費の先行きに対して不安と慎重な見方が多い。2015年は再び上昇トレンドに回帰することができるか、見通しDIの動向に注目していきたい。

### 景況感調査

#### 現状判断

##### 景気判断DI

当月：46.3 (+3.1)  
前月：43.2

##### 店舗周辺地域 景気判断DI

当月：45.9 (+1.4)  
前月：44.5

##### 消費者購買意欲DI

当月：46.2 (+3.0)  
前月：43.2

##### 周辺地域 競合状況DI

当月：40.9 (-0.3)  
前月：41.2

#### 見通し判断

##### 景気判断DI

当月：42.5 (+2.1)  
前月：40.4

##### 店舗周辺地域 景気判断DI

当月：45.1 (+1.8)  
前月：43.3

##### 消費者購買意欲DI

当月：41.5 (-0.4)  
前月：41.9

##### 周辺地域 競合状況DI

当月：38.6 (-0.6)  
前月：39.2

### 経営動向調査

#### 経営状況

##### 売上高DI

当月：-3.9 (-0.2)  
前月：-3.7

##### 収益DI

当月：-0.4 (-1.1)  
前月：0.7

##### 販売価格DI

当月：11.0 (+5.0)  
前月：6.0

##### 客単価DI

当月：9.4 (+6.4)  
前月：3.0

##### 来客数DI

当月：-15.3 (-4.5)  
前月：-10.8

##### 生鮮品仕入原価DI

当月：12.7 (+6.7)  
前月：6.0

##### 食品仕入原価DI

当月：12.3 (+1.5)  
前月：10.8

#### カテゴリ動向

##### 青果DI

当月：-19.0 (+1.6)  
前月：-20.6

##### 水産DI

当月：4.7 (-1.7)  
前月：6.4

##### 畜産DI

当月：16.8 (-3.1)  
前月：19.9

##### 惣菜DI

当月：8.9 (+1.7)  
前月：7.2

##### 日配DI

当月：-3.7 (-1.2)  
前月：-4.9

##### 一般食品DI

当月：-12.0 (-4.4)  
前月：-7.6

##### 非食品DI

当月：-14.6 (-0.4)  
前月：-14.2

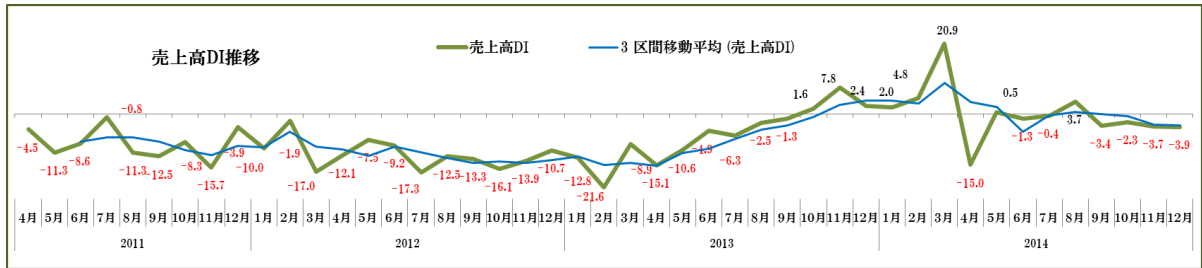
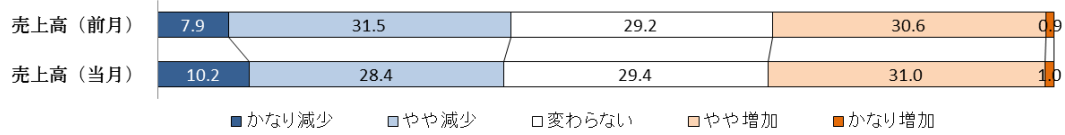
( ) 内は前月DIとの増減（赤字はDI減少）

# 12月調査（11月実績）結果詳細

## 1. 経営動向調査

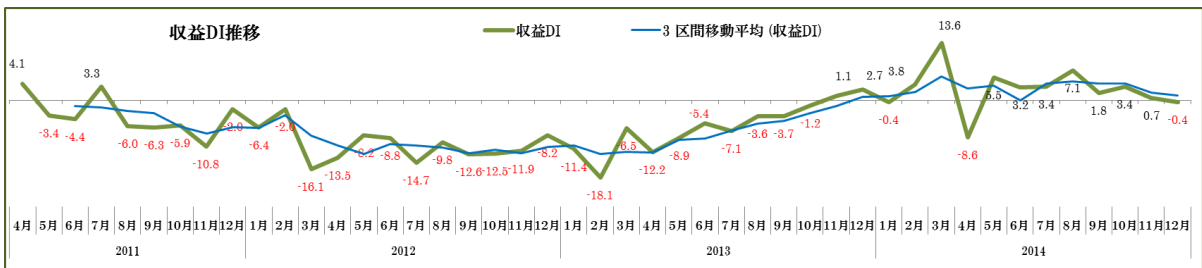
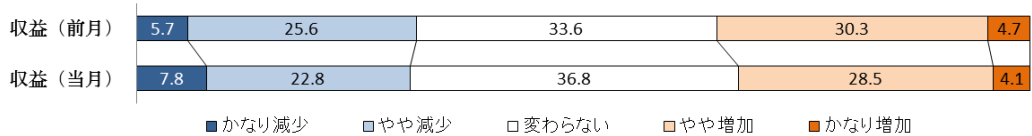
### ①売上高 DI

4ヵ月連続のマイナスも底堅く推移



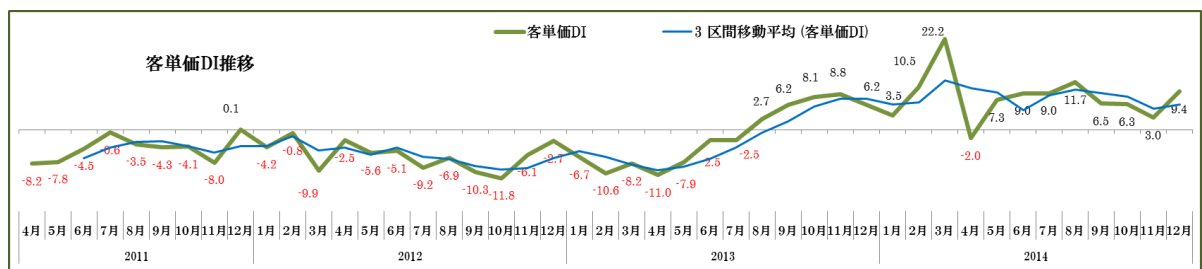
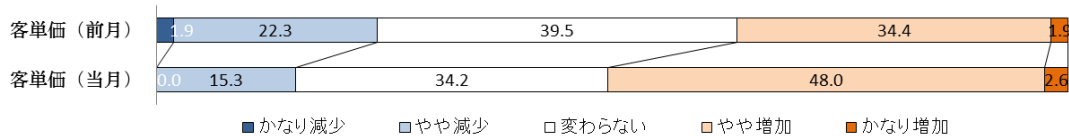
### ②収益 DI

ゆるやかに下降しており、12月は8ヵ月ぶりにわずかなマイナス



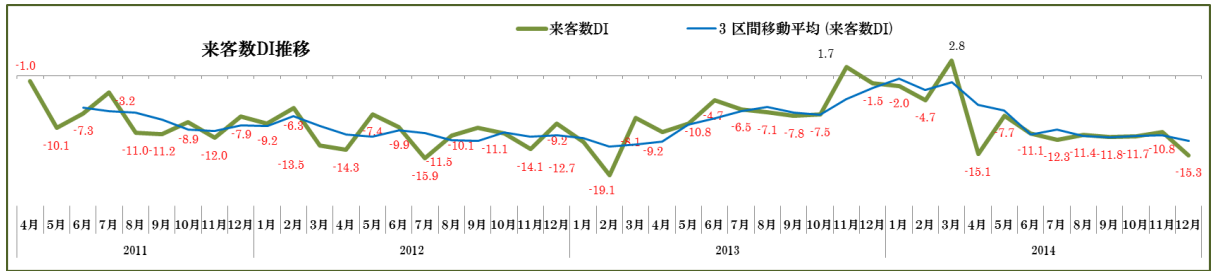
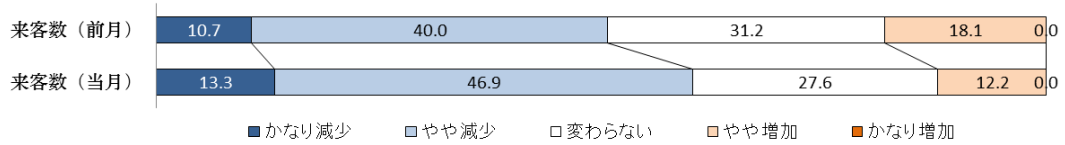
### ③客単価 DI

8ヵ月連続でプラスを維持し、12月は再び上昇



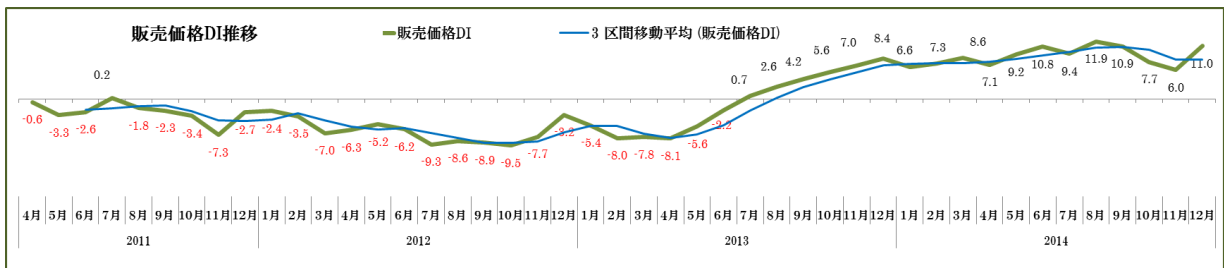
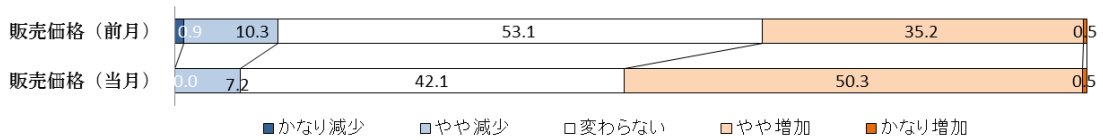
#### ④来客数 DI

二桁のマイナスが続き、4月の税率引上げ直後の水準まで下落



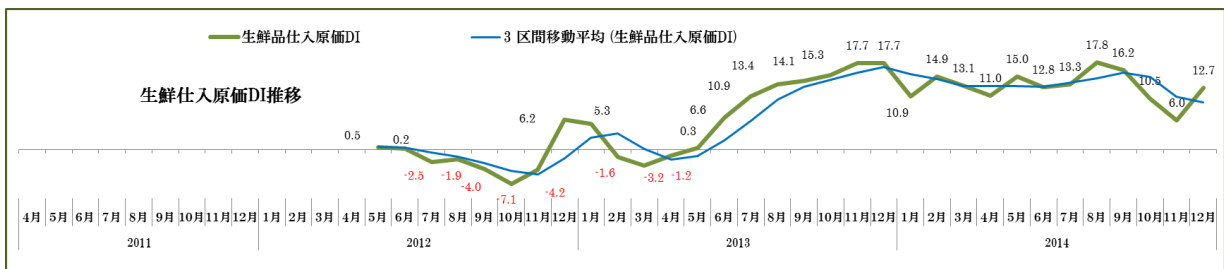
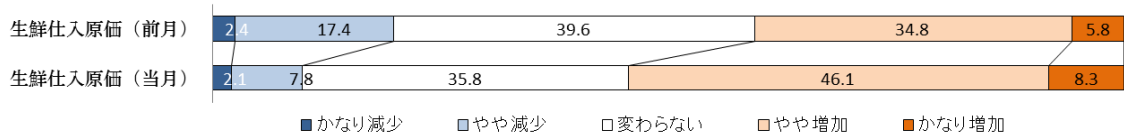
#### ⑤販売価格 DI

2013年7月からプラスを維持し、12月は上昇して二桁プラス



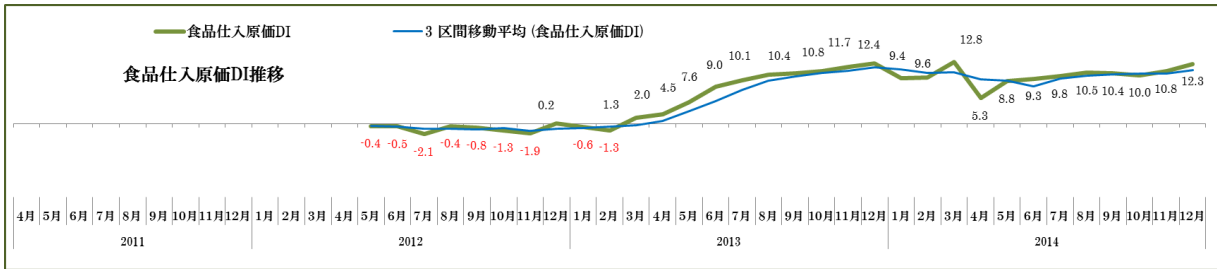
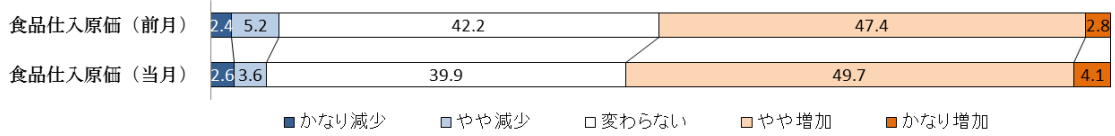
#### ⑥生鮮仕入原価 DI

8月をピークに下降しているが、12月は上昇して二桁のプラス



## ⑦食品仕入原価 DI

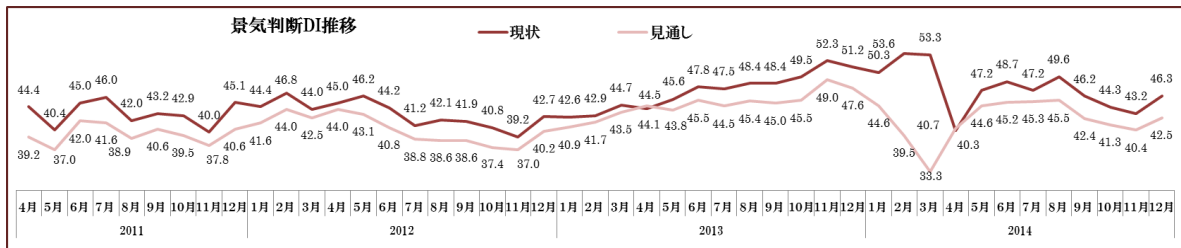
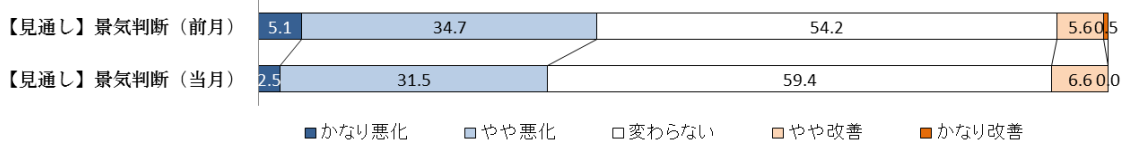
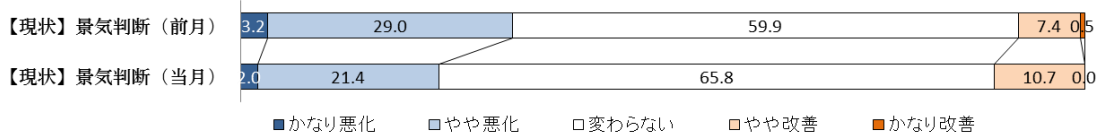
高水準で横ばい推移が継続



## 2. 景況感調査

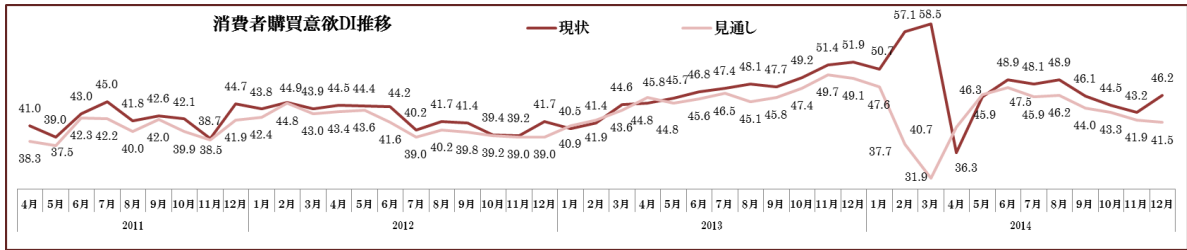
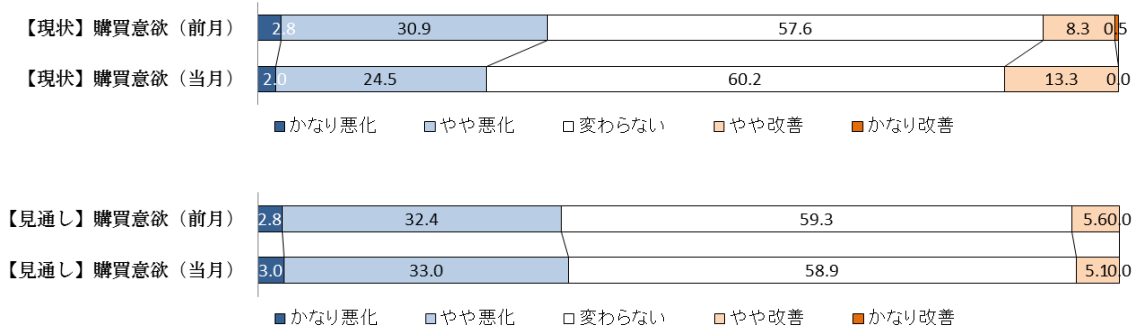
### ①景気判断 DI

現状、見通し判断ともに12月はやや反発をみせる



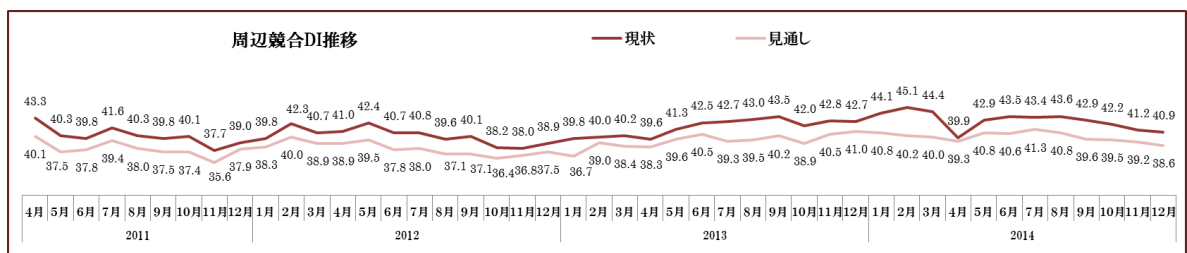
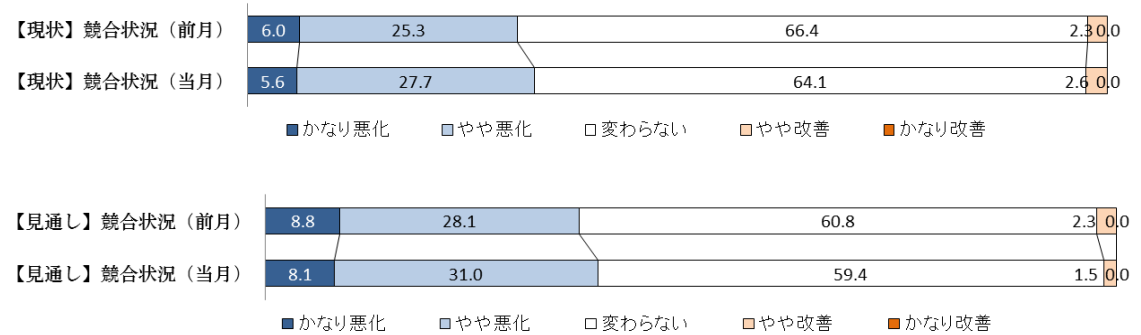
## ②消費者購買意欲 DI

現状判断は反発するも、見通し共に4ヵ月連続の下降で対照的な動きをみせる



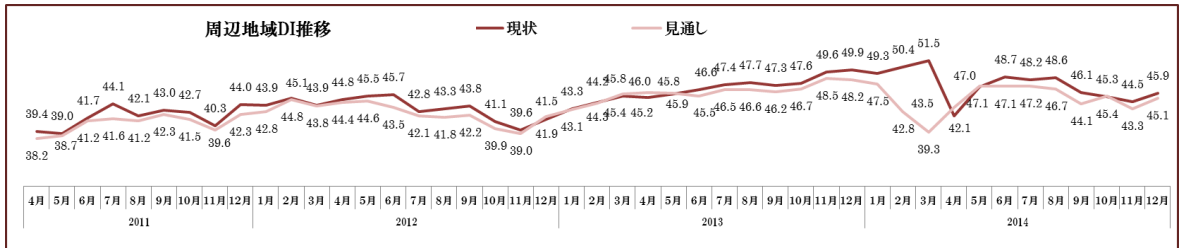
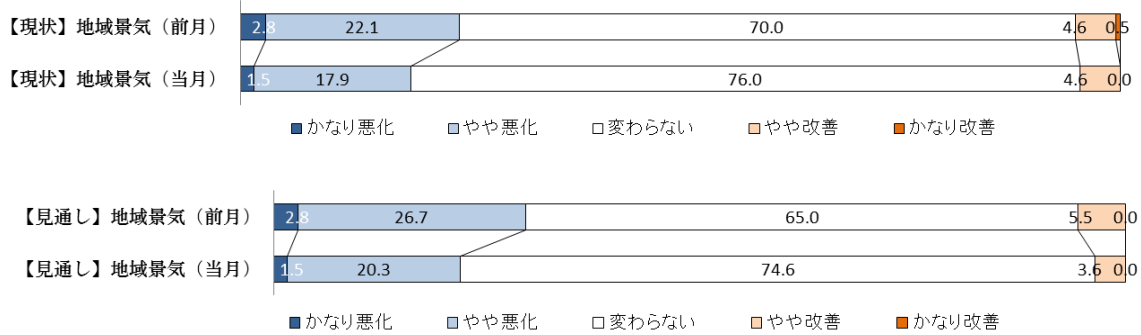
## ③周辺競合状況 DI

引き続き横ばい傾向が続き、改善の動きは見られず



#### ④周辺地域景気判断 DI

現状判断、見通し判断とも 12 月はやや反発をみせる

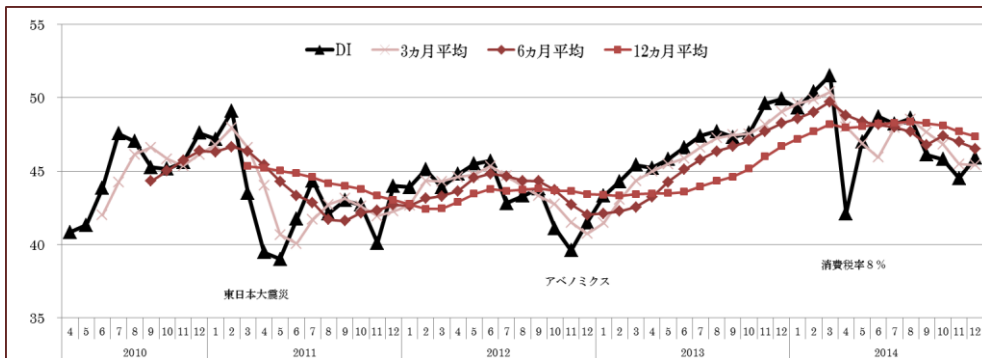


#### 長期傾向（周辺地域景気判断 DI）

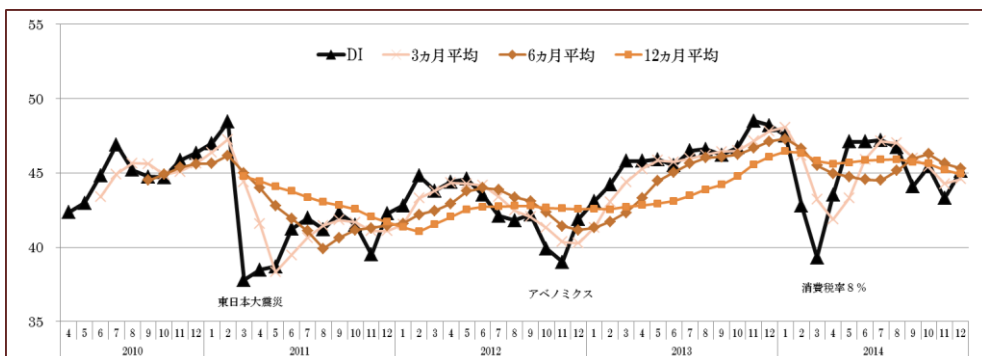
消費税率引き上げの影響を受け下落した現状判断 DI は、その後 6 月～8 月は横ばい推移、9 月～11 月で下降、12 月はやや反発をみせた。依然としてすべての平均線が下降方向に推移しており、また単月 (45.9)、3 カ月 (45.4)、6 カ月平均線 (46.5) がいずれも 12 カ月平均線 (47.3) を下回る推移が続いており、下降トレンドが継続している。トレンドの転換を確認するためには、短期平均線が長期平均線を上回ることが必要となる。

見通し判断 DI も同様に弱含みな推移を続けているが、すべての平均線が非常に接近しており、次月の結果によっては、トレンドが転換する可能性がある。

#### 現状判断（中長期傾向）



#### 見通し判断（中長期傾向）



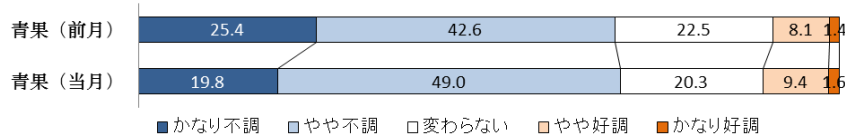
### 3.カテゴリー別動向

#### DIによる好不調判断

**かなり好調**:20 以上      **好調**:10~20      **やや好調**:0~10  
**かなり不調**:-20 以下      **不調**:-20~-10      **やや不調**:-10~0

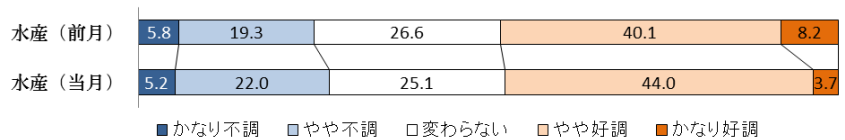
#### 【青果】不調 DI: -19.0

青果相場の相場安(後半はやや上昇)により主力野菜の単価が下落し不調となった。果物については、好不調がわかれているものの、みかん(柑橘類)やいちごの不調をあげるコメントが多かった。



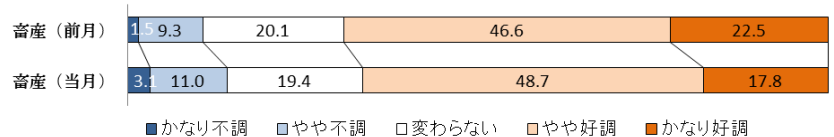
#### 【水産】やや好調 DI: 4.7

相場高を追い風に歳末の刺身類や塩干類の好調をあげるコメントが多くやや好調となった一方でエビやカニ、ブリなどが高値のため不調とするコメントがみられた。



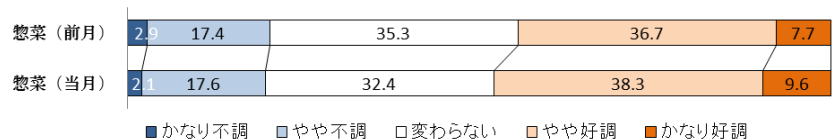
#### 【畜産】好調 DI: 16.8

牛豚肉の相場高のなか、年末のすき焼きや焼肉、鍋需要で、牛肉が特に好調であり、なかでも国産や高単価商品の動きがよいというコメントが多かった。



#### 【惣菜】やや好調 DI: 8.9

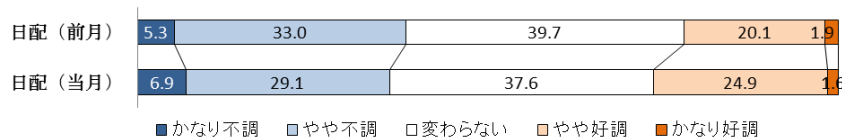
クリスマスや年末のオードブルや寿司、てんぷら類の好調を指摘するコメントが多かった。高単価商品の取り組みやロスの削減に取り組み、成果をあげたというコメントもみられた。





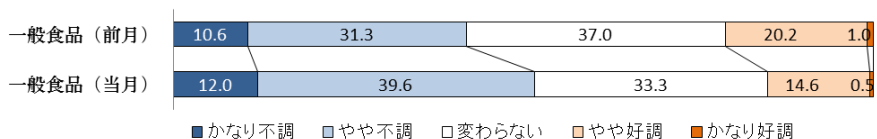
**【日配】 やや不調 DI：-3.7**

好不調まちまちの結果となり、全体としてやや不調となった。クリスマス商材や年末商材（蒲鉾、そば）はやや好調、その他和日配は不調、ヨーグルト飲料を除く、乳製品は価格上昇の影響で好不調がわかれ、冷凍食品は不調とのコメントが多かった。



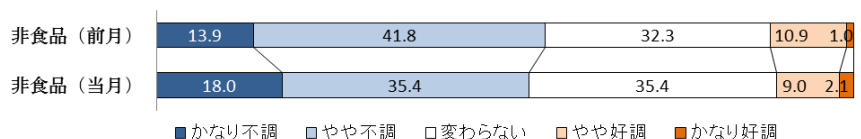
**【一般食品】 不調 DI：-12.0**

米の単価下落や気温低下による飲料類の不振に加え、同業に加え、他業態との価格競争を指摘するコメントが多く、不調となった。年末商材については、前年並みとのコメントが多かった。



**【非食品】 不調 DI：-14.6**

ドラッグストアと価格競争による不振に加え、たばこの不振をあげるコメントが多く、不調となった。特に日用品の不振を指摘する声が多かった。年末商材は前年並みとコメントが多い。



**2014年12月キーワード TOP 3**

1. 来客数の減少(来店頻度の減少)
2. 年末(29日)の天候不良
3. 年末年始商材(好調～前年並み)

**スーパーマーケット景気動向調査**

- 12月実績速報版集計197社
- 11月実績確報版集計217社